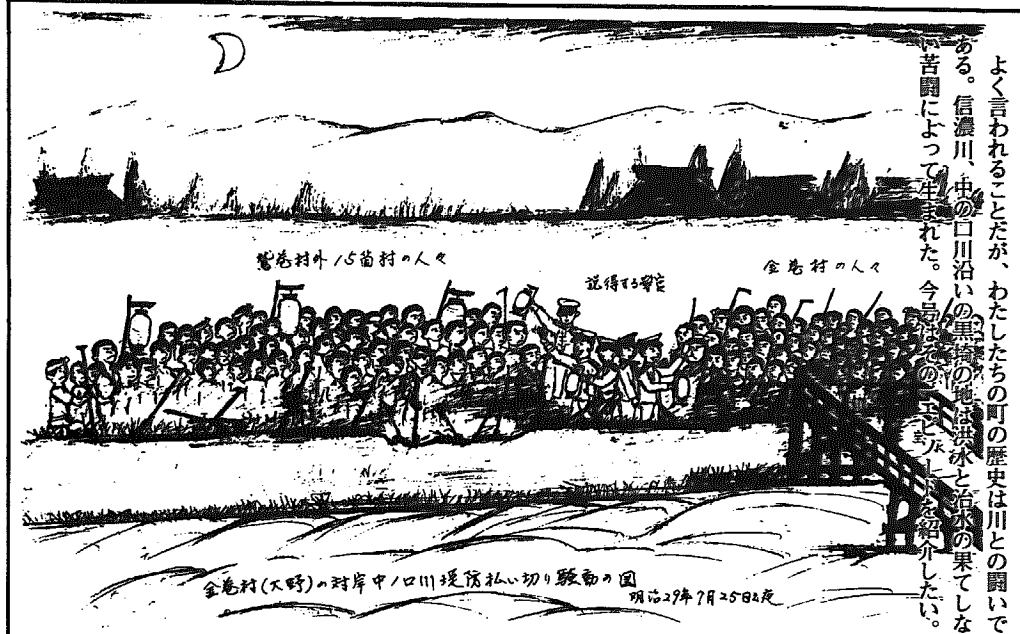


黒埼町の今昔

可史編さん談

明治二十九年の中蒲原郡大水害 驚巻村ほか十五箇村と金巻村(大野)が 堤防の払い切りであわや大惨事



よく言われることだが、わたしたちの町の歴史は川との闘いである。信濃川、中ノ口川沿いの黒埼の地は洪水と治水の果てしなく苦闘によって生きた。今も昔もこの地を語り継いでほしい。

明治二十九年と聞くと「あつ横田切れの話だな」と思う人がいるかと思う。横田切れは明治以降最大の洪水であった。西蒲原一帯が大きな渦になったほどである。ところでこの年は西蒲原に限らず、県下全域が水禍に泣かされた年であった。

明治二十九年の六、七、八月の新潟新聞には毎日のように水害の記事が載っている。例えば、七月二十四日、二十六日の同紙によれば、県内の破堤箇所は五十余箇所もあり、破堤の総延長は四千八百三十八間(約九千メートル)にも及んだことがわかる。

「農民能く警官の制止に応ず」

この見出しは七月三十一日付けの新潟新聞から拾ったものである。記事は次のように続く。

去る二十五日夜、西蒲原郡金巻村大字大野(中ノ口川)の対岸、中蒲原郡驚巻村外十五箇村堤防は、総て赤洪破堤の為耕地は一円湛水となり、

排除の途なきより、大野の対岸に当る堤防の払い切りをなさんと欲せしにぞ、大野方より五、六百名の村民が現場に駆け付け、ここを破壊せらるる時は大野は忍ち破壊して、浸水の害を免がる能はずと激昂し、双方共に大紛擾をひき起こし、將に争闘を始めんとする所へ、高野警部が巡査四、五名を随ひ現場へ出張し、双方に説諭を加へたれども仲々応ずる色なく、勢い益々猖獗なるにぞ、高野警部は大喝一声「汝等、吾れの制止を聞かぬとならば、高野警部を殺したる後、払い切りをなせ」と、呼ばわりつ、驚ノ木側を制止したところ、其の勢いに避易なし漸く双方共引き退き、遂に翌二十六日午前六時半頃平穩に帰せりといふ。(ほぼ原文)

払い切りで一触即発

この騒動は驚巻側十五箇村(今の白根市、中蒲原郡)の人たちが洪水による住宅や耕地の湛水を、大野の対岸の堤防を払い切りしようとしたことから始まった。払い切りとは湛水を川へ排水するため堤防を一時切ること。

ちようどそのころ大野側も横田切れで水没している家が多く、中ノ口川堤防の警戒を続けていた。二十五日の夜になって、驚巻側の人たちが払い切りするらしいという気配

を察して、これを阻止するためにたちまち五、六百人が集まった。大野側は宝永橋をわたって現場へ押しかけた。※宝永橋：明治二十一年から四十三年まで大野と驚巻を連なっていた橋。

そして、驚巻側があくまで強行するならば、大野側との間に流血の惨事は避けられない情勢となった。

このとき、異変を聞いて駆けつけた高野という警官が、「どうしても払い切りをするなら自分を殺してからにせよ」と身を捨て、事をおさめようとしたのである。

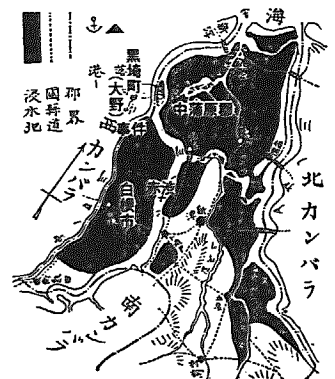
この気迫に押されて驚巻側は払い切りを断念し、事無きを得たわけである。

赤洪(白根市)の破堤

驚巻側がなせこうまでして払い切りをしようとしたのか。七月二十四日付けの新潟新聞に「赤洪」の破堤に就いて」とある。※赤洪：今の白根市赤洪。記事はこうである。

現在、建設省では信濃川下流河川改修事業を進めている。中ノ口川の大野側、白根市側は新たに築堤され、驚ノ木水門も改築される。既に地元説明会が開かれている。完成までに十数年かかるという。治水はまだ続いている。

(執筆・宮田栄門)



中蒲原郡赤巻村の破堤は凡百間に、溺死者もある趣なるが、同村は成辰の際破堤したることあり、今年は二十九年目の破堤せしものなりといふ。(ほぼ原文)

記事に破堤の日時は記されていないが、赤洪破堤は、七月二十二、三日ごろと思われる。破堤は百間というから約八百メートルにも及び、人々は湛水を下流の信濃川堤防を払い切つて水を落とし、家が水没しているため堤防上で生活していると記されている。

そして、記事の一週間後の三十一日付けの新聞に、赤洪破堤箇所からの浸水が中蒲の驚巻村など十五箇村に湛水したため、中ノ口川堤防の払い切りを計画したわけである。

蓮方団地で騒音測定 環境基準満たす



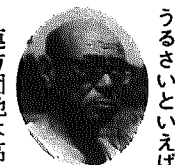
北陸自動車道に面している蓮方団地の騒音測定を、保健衛生課が九月四日(木)行いました。測定値は五十二から五十五ホーンで、騒音規制法で定められた環境基準六十五ホーンを下回りました。これは、自動車道の防音壁の効果と考えられます。

ただ、天候に左右されます。西風のときは高速、南風のときは新幹線の音が大きいです。雨の日は大型車の音がわかります。

うるさいといえはうるさいさいくらいでしょうか。

前川原ポンプ場通水式

大野都市下水路が一部完成したことは既にお知らせ済み(八月号)ですが、九月三日(水)に通水式を開きました。当日は町長、議長ら関係者の見守るなか、スイッチをオン。ポンプがごう音とともに稼働し、都市下水路から初めて中ノ口川に水が排出されました。排出能力は大型ポンプが毎秒二・一トン、小型が〇・二一トンです。



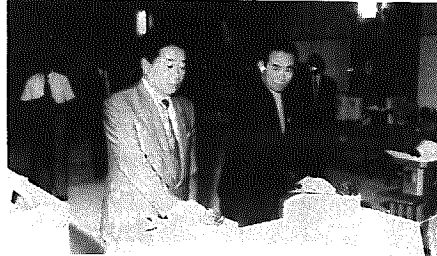
一 金出 出 小 蓮方団地 60歳

うるさいといえはうるさい。蓮方団地は高速道路と新幹線に挟まれていますから、騒音が一つの問題です。防音壁が出来てからはそううるさくありません。家の中に入ると気にならないぐらいです。

大野都市下水路事業は大野金巻、鳥原、善久の排水対策として昭和五十年から事業に着手し、今年度までに十六億



六千万円の巨費を投じている町の一大事業です。今後は善久などの下水路を造りポンプも増設される予定です。



スイッチを押す町長と議長(左)

黒鳥一にライスセンター

農政課では新農業構造改善



完成したライスセンター

事業を進めています。昨年、黒鳥一にライスセンターが出来ましたが、今年黒鳥一に作り、九月三日(水)、竣工式を行いました。

ライスセンターの組合は江端常次組合長ほか七人です。建設費は五千四百四十万円ほどで、国が五〇%、県が五%、町が二%補助します。

救急車が寄贈されました

このほど、消防署に勸日本消防協会から最新鋭救急車が



1日1回は出動する救急車

一台寄贈されました。この救急車には酸素呼吸器、担架、ベッドが装備されています。同協会では地方自治体に対し消防力強化のため事業をしています。

消防署では老朽化した五十二年購入の救急車を廃棄し、五十五年のものにあわせ二台で救急体制をとっています。救急車の出動回数は年間約三百五十回ほどで、一日一回は走っていることになりました。

救急時の要請は黒埼町消防本部へ。☎119か⑦2478

短 信 8月

- 8月▶5日柿崎町役場が視察に来町(住民福祉課)▶住民福祉課内打合わせ会(住民福祉課)▶6日入札(総務課)総合計画懇談会(商工振興課)産業振興会/チャリティーショー実行委員会(商工振興課)
- ▶7日黒埼祭り打ち合わせ(住民福祉課)▶11日越路町が視察に来町(総務課)融資委員会(商工)町長上京、黒埼茶豆のPRなど▶15日成人式▶16~17日黒埼祭り▶19日民協事務打ち合わせ会(住民)
- ▶20日国民年金委員協議会役員会(住民)▶21日老人クラブ会長会議(社会福祉協議会)課長会議▶ボランティア打ち合わせ会(社協)▶26日民協8月定例会(住民)▶26日議会正副委員長会議▶交通量調査打ち合わせ会(総務)▶29日国保運営協議会(保健衛生課)農業委員会(農政課)

企画開発課が役場2階へ移りました

10月1日から

こんな仕事をしています
企画係...実施計画、国土法の届出
開発係...企業誘致、建築確認申請
広報統計係...広報の編集、各種統計

新潟県最低賃金

昭和61年10月2日から

1日 **3,469円**

1時間 **434円**

新潟労働基準局・労働基準監督署